

平成28年度

# 川崎市立中学校 学習診断テスト 英語科

誤答分析と学習指導上の考察

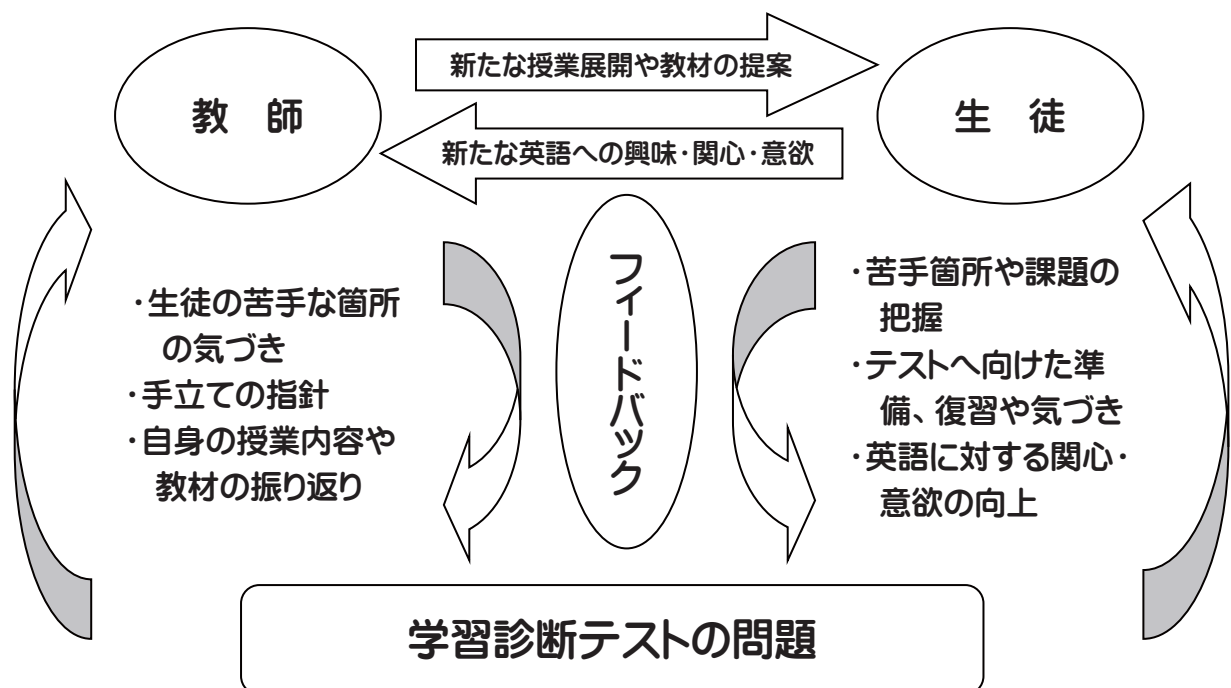
川崎市教育委員会  
川崎市立中学校長会  
英語科調査委員会

# 英語

## I 作成方針と構成

### 1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの目的・趣旨に沿って、学習指導要領に示されている各観点の基本事項について、10月末までの学習の定着状況が把握できるよう、出題の範囲やバランスを十分に考慮して問題を作成した。
- (2) 基礎的・基本的な知識の理解状況を幅広く診断するため、問題の形式や配列を工夫して作問した。
- (3) 思考力・判断力・表現力等の能力を総合的に判断できるように工夫して作問した。
- (4) 共通の言語材料を検討し、より公平に診断できる標準的なテストの作成を目指した。
- (5) 聞き取りテストでは、音声の聞き取り能力とともに、より自然な英語が聞き取れるかどうかも診断できるよう工夫した。
- (6) 「表現の能力に関する問題」については、より観点のねらいを明確にした作問を工夫した。



## 2. 出題のねらい

	1年生	2年生	3年生
問1	●会話文の組立て 絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	●会話文の組立て 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	●会話文の組立て 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。
問2	●会話文の組立て 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	●語彙の知識 英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	●語彙の知識 英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。
問3	●語彙の知識 絵を見て、場面や状況を理解し、適切な表現を選択することができる。	●語彙の知識 会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。
問4	●語彙の知識 場面や状況に合わせて文脈を読みとって、適切な動詞を選択することができる。	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。
問5	●語彙の知識 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	●対話文の読み取り 対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。	●対話文の読み取り 対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。
問6	●単語の並べ替え それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	●様々な形式の英文の読み取り 説明文や対話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な文やグラフを選ぶことができる。	●様々な形式の英文の読み取り 会話文やレポートの文章などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な文や絵を選ぶことができる。
問7	●様々な形式の英文の読み取り 説明文や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な絵や表を選ぶことができる。	●長い文章の読み取り 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	●長い文章の読み取り 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。
問8	●長い文章の読み取り 会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。
問9	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。
問10	●英作文 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。		
放送1	●リスニング（絵を選ぶ） 短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	●リスニング（絵を選ぶ） 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	●リスニング（絵を選ぶ） 短い会話文を聞き取り、その内容を表す絵を選択することができる。
放送2	●リスニング（絵を選ぶ） 対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	●リスニング（会話内容） 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文を選択することができる。	●リスニング（会話内容） 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文を選択することができる。
放送3	●リスニング（会話内容） 対話を聞き、その対話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	●リスニング（絵を選ぶ） 会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	●リスニング（会話内容） 会話文の内容を理解し、その内容に対する質問の答えを適切に選択することができる。
放送4	●リスニング（会話内容） まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	●リスニング（会話内容） まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	●リスニング（会話内容） まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。

# Ⅱ 第1学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語第1学年】

大問	小問	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
		知・技	思・判・表	表現	理解	言語				
1	a	○			◎		会話文の組み立て	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	89	1
	b	○			◎			絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	91	1
	c	○			◎			絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	97	1
2	a	○			◎	語彙の知識	絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	80	1	
	b	○			◎			91	1	
	c	○			◎			62	1	
3	①	○			◎	語彙の知識	絵を見て、場面や状況を理解し、適切な代名詞を選択することができる。	89	1	
	②	○			◎			81	1	
	③	○			◎			93	1	
4	①	○			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとって、適切な動詞や助動詞を選択することができる。	69	0	
	②	○			◎			72	1	
	③	○			◎			73	0	
5	a	○			◎	語彙の知識	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	44	20	
	b	○			◎			43	20	
	c	○			◎			51	13	
	d	○			◎			38	25	
6	a	○		◎		単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	55	4	
	b	○		◎				22	4	
	c	○		◎				50	4	
	d	○		◎				47	4	
7	a	○		◎		様々な形式の英文の読み取り	説明文や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な絵や表を選ぶことができる。	65	1	
	b	○		◎				67	2	
	c	○		◎				59	4	
8	A	○		◎		長い文章の読み取り	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	84	1	
	B	○		◎				75	2	
	C	○		◎				53	6	
	D	○		◎				47	6	
	E	○		◎				48	8	
9	a	○		◎		英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	49	9	
	b	○		◎				20	18	
10		○		◎		英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	48	7	
放1	a	○		◎		リスニング	短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	99	1	
	b	○		◎				69	2	
	c	○		◎				77	3	
放2	a	○		◎		リスニング	対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	92	2	
	b	○		◎				90	1	
	c	○		◎				48	1	
放3	a	○		◎		リスニング	対話を聞き、その対話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	57	3	
	b	○		◎				61	3	
	c	○		◎				63	1	
放4	①	○		◎		リスニング	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	76	7	
	②	○		◎				79	1	
	③	○		◎				66	1	
	④	○		◎				37	2	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	68.7
思考・判断・表現	59.5

## 2. 主な誤答と分析【英語第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	2	89	1	1	8	絵を見て場面に合った応答を選択することは、概ねできていた。
	b	3	91	1	1 2	4 4	
	c	3	97	1	1 2	1 1	
2	a	2	80	1	4 3 1	10 6 3	疑問文の作り方、答え方については概ね理解できていた。 aでは、be動詞を使った疑問文に一般動詞で答える誤答が多かった。 cでは、TuesdayとThursdayの区別が定着していなかったため、繰り返し指導していきたい。
	b	1	91	1	3 2	5 3	
	c	4	62	1	3 1	24 12	
3	①	1	89	1	3 2	6 4	場面に合った表現を選び、会話することは概ねできているので、これからも指導を続けていきたい。
	②	2	81	1	3 1	10 8	
	③	3	93	1	1 2	3 3	
4	①	1	69	0	3 2	16 15	一般動詞とbe動詞の使い分けができていない誤答が多かった。授業の中で文の構造の違いに気づかせ、繰り返し指導する必要がある。
	②	3	72	1	1 2	17 10	
	③	2	73	0	3 1	14 13	
5	a	write	44	20	whats	5	全体的に正答率が低く、無答率も高かった。英単語を書くことに苦手意識をもつ生徒が多いと思われるので、単語を指導する際は間違いやすいものに注意させたい。
	b	please	43	20	prease	6	
	c	twelve	51	13	twenty	5	
	d	breakfast	38	25	brackfast breckfast	3 2	
6	a	4132	55	4	4123 2134 2341	7 4 4 4	bでは、形容詞の疑問文、特に限定用法と叙述用法の区別が不十分であるための誤答がとて多かった。例文とともにしっかりと理解させたい。 dでは、疑問詞の直後に名詞がない誤答が多かった。疑問詞＋名詞の表現についても定着をはかりたい。
	b	2134	22	4	2143 1243 1234	29 26 10	
	c	1342	50	4	1324 1432 1423	20 14 5	
	d	3124	47	4	1243 4123	33 8	
7	a	2	65	1	4 1	24 6	aでは、内容を理解する前に、知っている単語のみで推測し、答えている誤答が目立った。 b、cでは、情報を整理しながら最後まできちんと読み取る習慣を身につけさせたい。
	b	4	67	2	1 3	28 2	
	c	1	59	4	3 4	14 13	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	A	4	84	1	2	10	内容は容易であったが、長い文章に抵抗のある生徒が多かったと思われる。 英文の内容把握が正確にできるよう、まとまった英文を読む機会を設け、長文に慣れさせることが必要である。
	B	3	75	2	1	19	
	C	2	53	6	3	22	
	D	4	47	6	2	33	
	E	1 4	48 79	8	2 5	26 18	
9	a	(例) See you.	49	9	Good bay. She you.	11 2	場面に合う表現を書こうとする意欲は高かったが、細かな誤りを含む文が目立った。 綴り、英文を書く上でのルールをしっかりと指導していきたい。
	b	(例) The view from here is wonderful.	20	18	Here view is wonderful.	2	
10	(例) I like baseball. I'm on the baseball team.	48	7				今年度は、教科書で取り扱った内容であったため、正答率が昨年度よりも高く、無答率も低かった。 be 動詞と一般動詞の混同、冠詞の用法の誤りが多かった。 授業で英文を書く活動を継続的に設定し、書く力をさらにつけさせたい。
放 1	a	2	99	1		0	基本的な聞き取り能力は身につけているように思われるが、細部を聞き逃しているための誤答が見受けられた。 自然なスピードでの情報処理能力を高めさせたい。
	b	3	69	2	1 2	16 13	
	c	4	77	3	3 1	9 8	
放 2	a	3	92	2	1	5	対話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することは概ねできていた。 c では、会話の内容を正確に理解していないと思われる誤答が多かった。
	b	1	90	1	3	9	
	c	3	48	1	2	50	
放 3	a	4	57	3	1 3 2	28 9 3	a、b では、質問に対する適切な応答ができていないための誤答が見受けられた。 c では、問5c と同様に、15と50の違いが聞き取れていない、または区別がついていないための誤答が目立った。 文法、数字ともに今後の授業の中で繰り返し継続して指導していきたい。
	b	1	61	3	3 2 4	24 8 4	
	c	4	63	1	2 3 1	22 8 6	
放 4	①	30	76	7	13	2	まとまった英文を聞き、情報を整理することは概ねできていた。 ④の誤答率が高かったのは、study という単語が聞き取れなかった生徒が多かったことと、スピーチの内容をきちんと理解していない生徒が多かったためだと思われる。
	②	水	79	1	木	9	
	③	日本の音楽	66	1	音楽 演歌	11 6	
	④	理科を勉強	37	2	理科 理科の先生 英語の先生	17 14 8	

# Ⅲ 第2学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語第2学年】

大問	問題番号	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
		知・技	思・判・表	表現	理解	言語				
1	a	○			◎		会話文の組み立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	97	1
	b	○			◎			絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	95	1
	c	○			◎			絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	71	1
2	①	○			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	56	16	
	②	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	38	36	
	③	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	40	25	
	④	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	45	33	
3	a	○			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	51	1	
	b	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	52	1	
	c	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	70	1	
	d	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	56	1	
	e	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	39	1	
4	a	○			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	67	3	
	b	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	67	3	
	c	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	64	4	
	d	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	67	4	
	e	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	58	4	
5	a	○			◎	対話文の読み取り	対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。	36	2	
	b	○			◎		対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。	31	3	
	c	○			◎		対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。	34	4	
6	a	○			◎	様々な形式の英文の読み取り	説明文や対話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な文やグラフを選ぶことができる。	39	4	
	b	○			◎		説明文や対話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な文やグラフを選ぶことができる。	25	5	
	c	○			◎		説明文や対話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な文やグラフを選ぶことができる。	40	6	
7	A	○			◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	49	3	
	B	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	55	4	
	C	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	36	4	
	D	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	53	6	
	E	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	18	7	
	F1	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	68	8	
	F2	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	35	8	
8	a	○	◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	54	15	
	b	○	◎				与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	28	25	
9		○	◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	12	3	
放1	a	○			◎	リスニング	短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	66	1	
	b	○			◎		短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	65	1	
放2	a	○			◎	リスニング	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	62	1	
	b	○			◎		短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	82	1	
放3	a	○			◎	リスニング	会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	60	1	
	b	○			◎		会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	54	2	
放4	①	○			◎	リスニング	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	44	16	
	②	○			◎		まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	53	8	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	61.7
思考・判断・表現	39.5

## 2. 主な誤答と分析【英語第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	97	1	2	3	絵を見て、場面に合った適切な応答を選択することは概ねできていた。 c は、他と比べて正答率が低い。単純に時間を答えてしまっているので、話の流れを理解し、適切に応答できるようにさせたい。
	b	3	95	1	2	3	
	c	2	71	1	1	28	
2	①	August	56	16	Augast	9	意味としては理解できているが、それを正しく綴ることはできていなかった。 無答率を見ても、英単語の定着率が低い。日頃から英単語の練習を取り入れたり、家庭学習に繋がる活動を取り入れたりして、英単語の綴りの定着を図りたい。
	②	arrived	38	36	amerika	2	
	③	interested	40	26	intersting	15	
	④	travel	45	33	triped	3	
3	a	4	51	1	2	35	全体的に文法の定着が図れていなかった。 特に e では、前後の内容を把握していなかったために have to を選択してしまっていた。 文法事項の理解だけでなく、場面をしっかりと理解して答える力を身につけさせたい。
	b	4	52	1	2	32	
	c	1	70	1	3	20	
	d	3	56	1	1	21	
	e	4	39	2	3	27	
4	a	3241	67	3	3214 3412	5 4	a～d は概ねよくできていた。 e では、助動詞や接続詞の用法を理解していない誤答が多かった。 助動詞とともに、接続詞 when の用法の定着を図りたい。
	b	1342	67	3	1324	19	
	c	4132	64	4	1432	6	
	d	2143	67	4	2134	15	
	e	4213	58	4	2134	6	
5	a	A: 2 B: 3	36	2	A: 3 B: 2	16	全体的に正答率が低かった。英語の情報を適切に整理することが苦手な生徒が多いと思われる。 まとまりのある文章を読む機会を多く設け、正確に内容を理解し、整理する力を身につけさせたい。
	b	A: 3 B: 1	31	3	A: 3 B: 2	27	
	c	A: 2 B: 1	34	4	A: 2 B: 3	17	
6	a	3	39	4	2	28	a では(But …)という記述から、これが使用不可の条件と読み取ったものと思われる。 b では文字として出ていたものを選んだ誤答が目立った。 絵や表を参考にしながら英文の情報を整理し、読み取る活動を授業内に設け、定着を図りたい。
	b	4	25	5	2	37	
	c	1	40	6	2 3	18 18	



大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
7	A	4	49	3	1	28	<p>学校行事について書かれているので、比較的読みやすい内容であったと思われる。</p> <p>E の問題は内容を理解し、主人公が東京校外学習で行なったことを正しく読み解かねばならなかった。また、答えを選ぶ際もまとまった英文を読まなくてはならないので、正答を選ぶのが難しかったと思われる。</p> <p>授業の中で、教科書だけでなく様々な英文を読ませ、まとまりのある英文をすばやく内容理解させられるように指導したい。</p>
	B	1	55	4	2	16	
	C	3	36	4	1	54	
	D	2	53	6	3	17	
	E	4	18	7	3	50	
	F	2 3	68 35	8 8	4 6	25 27	
8	a	(例) Shall I open the window?	54	15	Open the window.	4	<p>a では正答率が半数を超えていた。誤答であっても、語数を満たしていないなどの極めて正答に近いものが多かった。</p> <p>b では助動詞の使用については着目できていたが、それ以外の単語の綴りの間違いや冠詞の間違いが目立った。</p> <p>既習表現を繰り返し使用できる場面を設定し、定着を図りたい。</p>
	b	(例) Let's get something to drink?	28	24	Shall we drink juice	2	
9		(例) I'll visit the National Gallery. I want to see Renoir's painting. I want to buy a lot of postcards of his paintings there.	12	21			<p>完全正答の A 評価は 12%であったが、C 評価以上の合計数値では 37%であった。綴りの間違いや冠詞、前置詞の間違い、助動詞の後の動詞の形といった間違いが多く見られた。</p> <p>文の繋がりを意識した解答が多く見られたので、今後は既習事項を用いてまとまった英文を書く時間を増やし、細部にまで注意を向けられる力を育てたい。</p>
放 1	a	2	66	1	1	26	<p>場所を表す前置詞の定着と情報を正しく整理して判断することができていないことが誤答につながっている。</p> <p>ALT の話や CD なども含め、さまざまな場面での会話を聞き取る練習の機会を多く確保したい。</p>
	b	1	65	1	2	16	
放 2	a	3	62	1	4	21	<p>a、b ともに教科書内の場面設定を基にしている。教科書を使っての指導の充実を図りたい。</p>
	b	4	82	1	3	8	
放 3	a	2	60	1	4	26	<p>a、b ともに会話を聞き取る問題であったが、情報を正しく整理できていないことが誤答につながっている。</p> <p>メモを取りながら英文を聞く機会を多く確保し、情報を整理する力を身につけさせたい。</p>
	b	3	54	2	1	25	
放 4	①	3歳 ぼうしを被った	44	16	5歳 小さな	2 4	<p>デパート内のアナウンスという状況設定だったため、英文を正確に聞かずに、実際に日本語で流れるアナウンスを思い浮かべて書いたと思われる誤答が目立った。</p> <p>リスニング活動をより多く取り入れ、英文の内容の情報を整理して聞き取る力を育てたい。</p>
	②	3階 書店	53	8	2階 絵本	7 2	

# IV 第3学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語第3学年】

大問	小問	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
		知・技	思・判・表	表現	理解	言語				
1	a	○			◎		会話文の組み立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	96	0
	b	○			◎			絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	93	0
	c	○			◎			絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	95	0
2	①	○			◎	語彙の知識	英語を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	62	25	
	②	○			◎			71	11	
	③	○			◎			77	10	
	④	○			◎			83	8	
3	a	○			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	73	0	
	b	○			◎			67	0	
	c	○			◎			78	0	
	d	○			◎			59	0	
4	a	○			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	69	1	
	b	○			◎			44	2	
	c	○			◎			89	1	
	d	○			◎			57	3	
	e	○			◎			47	2	
5	a	○			◎	対話文の読み取り	対話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選ぶことができる。	32	0	
	b	○			◎			58	1	
	c	○			◎			46	1	
6	a	○			◎	様々な形式の英文の読み取り	会話文やレポートの文章などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な文や絵を選ぶことができる。	45	0	
	b	○			◎			52	0	
	c	○			◎			60	1	
7	A	○			◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	54	1	
	B	○			◎			62	0	
	C	○			◎			54	0	
	D	○			◎			65	0	
	E	○			◎			49	0	
	F	○			◎			54	0	
	G1	○			◎			56	2	
	G2	○			◎			56		
8	a	○	◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	30	18	
	b	○	◎					33	13	
9		○	◎			英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿ってつながりのある文章を、正しく書くことができる。	10	18	
放1	a	○			◎	リスニング	短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。	85	0	
	b	○			◎			51	0	
放2	a	○			◎	リスニング	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	65	0	
	b	○			◎			74	0	
放3	a	○			◎	リスニング	会話文の内容を理解し、その内容に対する質問への適切な答えを選択することができる。	49	0	
	b	○			◎			68	0	
放4	①	○			◎	リスニング	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	10	16	
	②	○			◎			19	24	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	70.5
思考・判断・表現	44.5

## 2. 主な誤答と分析【英語第3学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	2	96	0	1	3	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な表現を選択することは概ねできていた。今後も自然な会話の流れを重視した指導を継続したい。
	b	1	93	0	2	6	
	c	3	95	0	1	5	
2	①	during	62	2 5	doring duaing, drings, dought	2 1	他の問題と比べ、無答率の高さが目立った。誤答に関しては、意味としては理解できているが、正しく綴ることができていなかった。 日頃から単語の練習を取り入れたり、家庭学習に繋がる活動を取り入れたりすることで定着を図りたい。
	②	favorite	71	1 1	feivarit famouses	3 3	
	③	eaten	77	1 0	eated enjoy	5 2	
	④	best	83	8	been both	3 3	
3	a	3	73	0	4 1 2	1 6 1 0 1	SVOOやSVOCの文型や受け身は概ね理解はできているようだが、bの分詞構文やdのto不定詞・動名詞の活用が不十分のように思われる。 一回の説明にとどまらず、定着していない文法項目は、様々な場面を設定し繰り返し使用することで定着を図りたい。
	b	2	67	0	3 1 4	1 9 7 7	
	c	4	78	0	3 1	9 8	
	d	3	59	0	4 2	2 6 1 2	
4	a	31254	69	1	31542 31524	7 6	bでは、不定詞を用いた something to drink の形ではなく、to something drink としてしまう誤答が目立った。 dは3年生で学習した文構造だが、曖昧に理解していると考えられる誤答が多かった。 eでは、受け身と過去分詞を用いた後置修飾を混同してしまう誤答や what+名詞の疑問文にしてしまう誤答があった。 様々な場面を設定した表現活動を通して、場面に応じて適切に表現できるようにしたい。
	b	15432	44	2	15342 15324 14235	2 2 6 4	
	c	43512	89	1	43125 34512	3 2	
	d	24153	57	3	25341 34152 53241	6 4 3	
	e	52341	47	2	53241 52143 51243	9 9 5	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
5	a	A:3 B:3	32	0	A:3 B:1 A:1 B:3	0	<p>a では、使用頻度の高い <b>take pictures</b> を連想し、会話の内容に合う語を選ばなかった傾向が読み取れる。また、<b>don't have to</b> と <b>mustn't</b> の違いを明確に理解できていないための誤答も目立った。</p> <p>b、c では、内容全体を理解していないための誤答が目立った。</p> <p>教科書の内容を要約するなどし、理解した内容を端的にまとめる力の育成を図りたい。</p>
	b	A:1 B:3	58	1	A:3 B:3 A:2 B:3	13 10	
	c	A:1 B:2	46	1	A:1 B:1 A:2 B:2	12 10	
6	a	3	45	0	1 4 2	28 14 13	<p>a では、設問の意味を理解せず、本文の内容に合う選択肢を選んだ傾向が見て取れる。</p> <p>b では、多くの情報の取捨選択を十分に行えなかったための誤答が目立った。</p> <p>c では、長い文章ではあるが情報が明快なため、比較的正答率が高かった。</p> <p>ある程度の量の様々な英文を読み取る機会を多くつくり、情報を整理する力を身に付けさせたい。</p>
	b	3	52	0	4 1 2	22 14 12	
	c	4	60	1	1 2	16 16	
7	A	3	54	1	1 2 4	24 15 6	<p>A は、ある程度、文章の内容を読み取らないと正答を選べないため、最初のほうだけを読んで解答したものが、誤答につながったと考えられる。</p> <p>C は、下線部の内容が直接表記されているのではなく、直前の文から考えなければならぬため、その他の選択肢を選ぶ誤答が目立った。</p> <p>E は、設問の内容理解が不十分と考えられる誤答が目立った。</p> <p>文章の内容を読み取り、概要や話者の意図を理解する力を身に付けさせたい。そのために、まとまりのある英文の題材を利用し、長い文章を日本語に訳さずに英語で読み取る機会を授業で増やしたい。</p>
	B	2	62	0	3 1 4	18 12 8	
	C	4	54	0	3 1 2	16 15 15	
	D	2	65	0	1 3 4	16 12 7	
	E	1	49	0	4 2 3	20 15 15	
	F	4	54	0	2 3 1	16 16 13	
	G	1 6	56 56	2 2	2 5	23 23	
8	a	(例) is read by many people in the world	30	18	book is written in India		<p>書こうとする意欲は見られたが、完全な正答は多くなかった。</p> <p>状況に応じて適切な表現を使えるよう、既習表現を繰り返し使用できる場面を設定し、定着を図りたい。</p>
	b	(例) I don't know how to use it	33	13	I don't know to use smartphone		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
9		(例) “yukata” A yukata is clothes like kimono. We wear it in summer. We wear it when we go to Bon-odori or fireworks festivals.	10	18			教科書で扱った内容であったためか、書こうとする意欲は感じられたが、完全な正答率は低かった。 多少の綴りや文法のミスがあったため完全正答とはならなかったが、全く意味が伝わらない文章は少なかった。 身近な事柄を書く機会を増やし、その中で正確な文章で伝えることの意欲や関心を高めていけるよう継続して指導していきたい。
放1	a	3	85	0	1	7	b では、情報を瞬時に整理できていないための誤答が推測できる。 授業での英語による指導を継続し、聞く活動を増やすことで、日本語を介さず理解する能力を育てたい。
	b	2	51	0	4 3	20 16	
放2	a	1	65	0	2 4	18 9	a、b 共に普段の会話でよく使われる表現なので、授業の中で繰り返し練習し、定着を図りたい。
	b	4	74	0	3 2	15 6	
放3	a	2	49	0	1 3	26 25	長い会話を聞き取る問題だったので、最後まで聞けなかったり、一部の印象に残った情報に頼ったりすることによる誤答が目立った。 様々な場面のやり取りを聞く活動を増やし、情報を正しく聞き取る力を伸ばしたい。
	b	3	68	0	2 1	22 9	
放4	①	何か食べたい 買うことが	10	16	日本食/洋食/サンドウィッチ/軽食/食べない 食べることが/注文/ご用意/提供/お出し/お持ち帰り/持つてくる		必要な情報を、正確に聞き取ることができていなかった。特に①ではポイントとなる条件を表す表現が理解できていなかったと思われる解答が目立った。 リスニング活動をより多く取り入れ、英文の内容の情報を整理して聞き取る力を育てたい。
	②	座席の前 テレビ	19	24	前/席の下/イス/シート/正面に希望の 席/前/モニター/画面内/機内/上/前にあるスクリーン		

# V 全体の考察と今後に向けて

## 1. 全体の考察

今年度も検査本来の目的、趣旨をとらえ、学習状況を把握できるように作問した。問題全体の英文については、場面設定も含め、より自然な実際のコミュニケーションを意識した文章作りを心がけた。長文問題に関しては、なるべく平易な文章を使用し、文章量を多くした。また、10行程度の文章を丁寧に読む問題と、長文の概要を把握する問題とを出題し、多様な種類の文章を用いながら生徒の英文読解力を測った。

英作文問題については、学習指導要領の「書くこと」にある『自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと』という観点を考慮し、あえて教科書の Chapter Project に沿った形で作問した。また、採点基準の難しさもあるが、生徒の表現の能力を知るために、単純な和文英訳にならない形式で出題した。

英作文問題の採点に関して、アンケートで採点基準についてご意見を毎年いただくが、今後も各校の CAN-DO リストや日頃の授業の実態に合わせた判断、生徒の書く意欲を伸ばす判断をもとにした集計をお願いしたい。生徒・教師がともに、「これまでの学習を通して何ができるようになったのか」、「今後何をしていくべきなのか」をより明確にできるような、妥当性が高く、各観点の力を判断できる作問を今後も進めていきたい。

問題の趣旨ごとに平均正答率を見ると、1年生「知識・技能」67.2%、「思考・判断・表現」57.5%、2年生「知識・技能」61.7%、「思考・判断・表現」39.5%、3年生「知識・技能」64.5%、「思考・判断・表現」40.0%であった。学年が上がるにつれて、「知識・技能」に関する問題と「思考・判断・表現」に関する問題との差が大きくなっていることが分かる。

今年度の集計結果からも、より一層「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を統合的に活用できる授業デザインの工夫を継続していく必要がある。学習する語彙が増え、文法事項がより複雑になっていくが、日頃の授業の中で、教科書の Chapter Projectなどをうまく活用し、生徒自身の思いを簡単な英文で表現したり、行事の思い出などを文と文のつながりに注意して書き、発表するなどの課題を設定し、外国語表現の能力を伸ばすよう努力したい。

授業時間が週4時間あるとはいえ、対話活動などのオーラルコミュニケーション活動、英文を読み解く活動、文法の説明などを扱いながら、とりわけ時間のかかる「英文を書く活動」を確保するのは非常に難しいが、まずは自分の身近な事柄を平易な短い文で表現する活動を継続することが、表現の能力を伸ばす第一歩となるのではないだろうか。

## 2. 問題ごとの考察

### (1) 知識・技能に関する問題について

- 1 学年一
  - ・問1は正答率が高かった。絵の状況をしっかりと理解できていた。
  - ・問2 a では be 動詞の疑問文に一般動詞で答える誤答が多く見られた。また c では Tuesday と Thursday の区別ができていない誤答が目立った。
  - ・問3では友人を紹介する会話の流れを考えずに、選択肢だけを見て答えていると思われる誤答が目立った。
  - ・問4では be 動詞と一般動詞、人称の区別の定着が不十分であった。今後も文構造の違いを指導していく必要がある。
  - ・問5の単語を書く問題では使用頻度が高い単語を出題したが、正答率は低かった。問2 c もそうだが、音と綴りの関係を理解させながら、正しく綴る力を身につけさせたい。
  - ・問6の並べ替え問題では b の正答率が約2割と大変低かった。難易度の高い問題ではあるが、誤答と対比させることで、文構造の違いを理解させたい。また、d の疑問詞十名詞の語順の定着も毎年の課題である。
  - ・聞き取りテストは概ね正答率が高かったが、正答率の低かった問題2 c や問題3などから判断すると、自分が聞き取れた単語と問題の中の絵を曖昧に結びつけ、答えを導き出しているように思われる。
- 2 学年一
  - ・問1は c の正答率が7割を切った。誤答のほとんどが、絵の状況を考えずに、What time ~? の文を単純に時間を尋ねているものだと勘違いしたものだ。
  - ・問2の単語を書く問題は全体的に正答率が低かった。特に②の arrived は正答率が3割を切り、無答率も非常に高かった。また、③の interested を interesting とする誤答も多かったことから、単語の習得を文単位で行っていないことも見て取れる。

- ・問3では前後の単語や文章をしっかりと読まずに答えを選んでいると思われる誤答が多く見られた。
  - ・問4の並べ替え問題では、文中の助動詞の位置や助動詞の後に動詞が続くといった英語の文構造を理解していない誤答が目立った。
  - ・聞き取りテストでは、前置詞や会話内のキーセンテンスを正確に聞き取れていないための誤答が目立った。
- 3 学年一
- ・問1は正答率も高く、絵の状況を理解し、場面に合った適切な応答を選択できていた。
  - ・問2の単語を書く問題は例年と比べて正答率が高かった。①の **during** の無答率が高かったが、日本語が「最中」となっていたため、**during** と結びつかなかったための無答だと思われる。
  - ・問3では分詞構文や不定詞と動名詞についての理解が不十分であることが分かる。どれも使用頻度の高い文法事項なので、今後もくり返し学習し、定着を図る必要がある。
  - ・問4の並べ替え問題では、cの **something to drink** の文を **to something drink** とする誤答が多かった。形容詞的用法の文は、パターン練習などで何度も繰り返すことで定着をはかりたい。
  - ・聞き取りテストでは、問題1bや問題3aなど、登場人物が多かったり、会話内容が長かったりすると、正答率が低くなる傾向が顕著に表れた。授業の中でリスニングを行う機会は多いが、長めの文を聞く活動も積極的に取り入れたい。

## (2) 思考・判断・表現に関する問題について

- 1 学年一
- ・問7では教科書1セクション分の文章、単語の羅列の広告、教科書1レッスン分の文章をいかに正確に読み取るかを求めたが、正答率から判断すると、情報を的確に把握せずに流し読みをしている傾向があると思われる。
  - ・問8の長文問題は、平易な内容ながら、初めて目にする文章量の多さや、長文問題の形式にもまだ慣れていないことが問題ごとの正答率からうかがい知ることができる。
  - ・問9の英作文では、日常的に使われるあいさつを正確に記述できるか、またこれまでの学習で身につけた知識をどれだけ表現に結びつけられているかを問題のねらいとしたが、場面を理解し、状況に合った表現をしようとする意図が誤答からも見て取れた。
  - ・問10の英作文は教科書の **Chapter Project** とほぼ同一の内容であり、基本的な自己紹介文だったため、正答率は例年より高く、無答率も低かった。
  - ・聞き取りテスト問題4は概ね正答率が高かったが、正答率の低かった④から判断すると、自分が聞き取れた単語と問題の中の日本語を曖昧に結びつけ、答えを導き出しているように思われる。
- 2 学年一
- ・問5の対話の内容を要約する問題は、10行に満たない会話文ではあるが、内容自体が複雑なため、「だれが」「どうする」などの重要な内容を丁寧に読み込まなければならぬ。しかし正答率の低さを見ると、正確に文章内容を読み取る作業に慣れていないことがよく分かる。
  - ・問6では説明文や対話文、グラフなどを絡め、的確に内容を読み取る力をはかる問題だが、文章量の多さと内容の複雑さから、正答率はどれも3割程度にとどまった。教科書だけでなく、初見の文章を自らの力で情報整理しながら読む活動を授業内でも行う必要があると思われる。
  - ・問7の長文問題は、A～Cの問題が日本語の選択肢から選ぶ問題であったが、正答率は低かった。誤答から判断すると、本文をよく読まずに選択肢から内容を推測しているように思われる。E、Fの内容理解の問題は、選択肢が英語であることもあり、当然ながら正答率は大変低かった。長文読解に慣れていないことが浮き彫りになる結果となった。
  - ・問8の英作文では、絵の状況を把握し、助動詞や不定詞などの既習事項を使い適切な受け答えができるかを問題のねらいとしたが、場面を理解し、状況に合った表現をしようとする意図は誤答からも見て取れた。
  - ・問9の英作文は教科書の **Chapter Project** とほぼ同一の内容を出題した。完全正答率こそ低かったものの、誤答の多くは綴りや冠詞、前置詞や動詞の語形変化などの細かいミスであり、文のつながりを意識した解答が多く見られた。
  - ・聞き取りテスト問題4は、場面のイメージは持っているが、必要な情報を聞き取ることができていなかった。自分が聞き取れた単語と問題の中の日本語を曖昧に結びつけ、答えを導き出しているように思われる。
- 3 学年一
- ・問5の対話の内容を要約する問題は、教科書1レッスン分程度の会話文ではあるが、内容自体は複雑なため、情報を適切に整理する力とともに、読み取った情報を言い換えた

- り、まとめたりする力が必要である。教科書の文などを上手く活用したい。
- ・問6では、aは箇条書きで羅列された情報を的確に理解する力、bでは提示された情報と英文の両方を見比べ、段階を追って正答を導き出す力、cは長文から必要な情報を見つけ出す力をはかった。教科書と比べて文章量は多いが、様々な種類の英文に触れ、初見の文章を自らの力で情報整理しながら読む活動を授業内でも行う必要があると思われる。
  - ・問7の長文問題は、比較的平易ではあるが文章量を多くし、長文に対応する力をつけることを意識して作成した。選択肢も全て英文だったため、正答率は低くなると予想したが、概ね5割を超える正答率となった。無答率の低さからも、長文に前向きに取り組む姿勢が見て取れる。
  - ・問8の英作文では、絵の状況を把握し、これまでの既習事項を使い自分なりの受け答えができるかを問題のねらいとした。無答率も比較的少なく、書こうとする意欲は感じられたが、単語や文法が定着していないための誤答が目立った。解答用紙をそのまま返却して終わりにするのではなく、自分の解答のどこを直せば正確な文になるのかを教師が提示し、授業や定期テストなどで改めて問うことで、生徒の書こうとする意欲を損ねることなく、定着を図りたい。
  - ・問9の英作文は教科書のChapter Project とほぼ同一の内容を出題した。教科書で扱った内容であったため、完全正答率こそ少なかったものの、書こうとする意欲は感じられた。また、誤答でも全く意味が伝わらない文章は少なかった。
  - ・聞き取りテスト問題4は2問とも正答率が低かった。2つの括弧に適切な日本語を当てはめる問題だったが、聞き取った英語をそのまま直訳するだけではうまく当てはまらないため、どう書けばよいのか分からずに誤答や無答となったことが推測される。純粋に聞き取りの力を測れる問題となるように、来年度以降の作問の課題としたい。

### 3. 指導にあたって

平成28年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくることや、その改善のための指導の留意点などを、出題の趣旨別に記したい。

#### (1) 知識・技能に関する問題について

語彙の指導については、単語テストや宿題などで単語を書く作業を各学校で実施しているが、定着率は高くないようである。フォニックス指導は3年間を通した指導が必要だと思われる。音読活動を繰り返し行い、対話活動を充実させ、より確実に語彙を増やし語順に慣れ親しむ活動の継続が必要である。

また、各学年とも重要文法事項や頻出慣用句に関する問題の正答率の低さが目立った。冠詞、疑問詞、助動詞の使い方や基本文型の語順も含め、既習の文法事項や単語を繰り返し利用したスパイラルな学習をより意識した授業を行っていく必要があるだろう。

聞き取りテストでは、初歩的な対話や説明、視覚的なヒントがある問題の正答率が高いが、文章が長くなると情報を整理して聞き取ることが難しくなるものである。日頃から積極的に教師、ALTが英語で身近な話題で語りかけ、まとまった英文の内容の概要を理解するような活動を継続したい。

#### (2) 思考・判断・表現に関する問題について

例年同様、絵やグラフ、メールなど、実際のコミュニケーションでありえる説明文や対話文の読み取りについての問題では、短い文章、対話文でも情報が複雑になると細かいところまで読み取ることができていなかった。また、長文読解問題では、時間内に素早く内容を細部まで読み取ることができていなかった。このような読解の技術は日頃の訓練により伸びてゆくと思われる。教科書を用いた内容理解の授業では、1つのLessonをA,B,Cと短く分割して読む授業が一般的かと思われるが、それだけではいわゆる長文読解力育成は十分とは言えない。教科書の英文だけでなく川崎市総合教育センターHPにあるALTが書いた素材などを活用して、ある程度まとまった英文の内容を把握させる活動を取り入れたい。その際、いつ・どこで・だれが・どうした、といった内容のあらすじの要約や時間の流れに沿って話を再構成させるstory retellingの活動も有効であろう。

聞き取りテストでも同様の傾向があった。内容が少し複雑なものや文章量の多い問題では、大まかに聞き取った単語などから、あいまいに内容を推測したであろう解答が目立った。授業の中でリスニング活動を行う場合、その多くが教科書の中の比較的平易で短い文の聞き取りなのではないだろうか。NHKの基礎英語LEADなどの教材を使い、教科書以外の長めの文を聞く活動も



積極的に取り入れたい。

英作文問題では、昨年度とは違う試みを2つ行った。ひとつは重要なイディオムや文法事項を確認する部分英作文の問題をなくし、代わりに絵とその会話から自分なりに英文を考え、書く問題にした。英作文の問題は毎年無答率の高さが問題視されるが、生徒各自のレベルに応じた英語力と想像力で自分なりの英文を考え、書いてもらいたいというねらいがある。また、二つ目の試みは、もう一つの英作文問題を教科書の **Chapter Project** とほぼ同じ内容としたことである。これには「授業内で自分が書いた文章を丸暗記すればできてしまう問題であり、表現の能力をはかるには不適切ではないか」という意見もあるが、以前授業で自分が書いた内容を、時間をおいても改めて正確に書くことができるかを、生徒だけでなく教師も把握できると考えた。また、この問題が出題されることを事前に予告することで、生徒が事前にこのテストのために改めて暗記し直すことも、スパイラル学習という視点で見れば、むしろ歓迎すべきことだと考えた。採点作業に関しては先生方にお手数をお掛けしたが、各学年の無答率を見る限り、どちらの問題も出題のねらいは概ね達成できたのではないかと感じている。生徒が考えついた日本語の内容と英語で表現できることの差は大きく、頭に浮かんだ日本語を学習した英語に訳してから書くためには、日頃から思ったことを書く訓練が必要であるが、これらの英作文問題がその一助となれば幸いである。

#### 4. 授業改善にむけて

生徒の主体的な学びを導くためには、「わかる」「できる」といった小さな達成感の積み重ねが大切である。そのためには、生徒の目線に合った **small step** を授業に丁寧に組み込んでいく必要がある。生徒に理解可能な **input** 活動があつてこそ、生徒は理解し、自分の中に取り込み、活用していくことができる。教師の一方的な説明などの **input** 活動に時間を費やし **output** 活動の時間が少ないことも多いようである。生徒に様々な発表の機会を与え、自信を持たせ、主体的に学ぶ手だてを示すことは重要である。さらに、生徒の発表から指導が十分ではない部分を教師は見取ることができる。発表活動を繰り返すことで、正確さ、流暢さが向上するような仕組みも確立していきたい。

また、英語はコミュニケーションツールの学習である以上、授業中の設定にもインフォメーションギャップがなくてはならない。そのためにも **ALT** を活用し、自然なインフォメーションギャップ、カルチャーギャップを生かしたい。また、グループワークなどの協働的な学習は生徒のコミュニケーション意欲を促し、伝え合い分かり合う達成感も感じさせることができる。生徒の「伝えたい」「わかりたい」という意欲を高めることのできるような興味深い話題や場面の設定、多様な活動方法を開発し、実践していきたい。

